




プログラム名	はじまりはいのちのねんどだんご	
実施団体	○団体名：シンプル&スローライフの会 ○代表者名：柳沼 眞理 ○電話：022-346-6781 ○FAX：022-346-6782 ○住所：仙台市泉区実沢字桐ヶ崎屋敷1番地 ○E-Mail：m.yaginuma@sslife.org	
対象者	幼児、小学生、中学生、高校生、成人、高齢者	
対象人数	30人程度まで（園児5人に1人以上の先生、保護者が必要）	
学習場所	園庭、校庭など土や泥などで汚れても良い場所	
学習時間	粘土団子作り 約2時間	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	実施団体側	粘土質の土、ふるい、ブルーシート、トレイ、スコップ、バケツ、じょうろ、タネ
	利用者側	粘土団子を入れる容器、霧吹き、新聞紙 食べた野菜や果物のタネ
事前打ち合わせ	実施の1ヶ月前（土の手配のため）	
効果的な学習段階	年齢、学習段階を問わず利用可能	
学習概要	1. 学習のねらい (1) いのちの粘土団子作りを通して、自然素材である土、粘土、水、タネに触れる。 (2) 植物のタネや育て方等の知識を得る前に、いのちの粘土団子を蒔き、その様子を自然に任せ、見守ることにより、いのちの粘土団子から広がる様々ないのちのありように触れ、感性を育む。 (3) いのちの粘土団子の発芽を目の当たりにし、生きようとするいのちと、自然の中で生かされているいのちを感じる。	
	2. 学習する内容 事前準備：家庭で食べた野菜や果物のタネを集める。 1. 粘土団子作り (1) 始まりの会(30分) ①自己紹介 ②「はじまりはいのちのねんどだんご」という紙芝居を見る。 紙芝居の内容 ・粘土団子は自然農法家である福岡正信さんの提唱する農法である。 ・粘土団子は砂漠の緑化としても活用されている。 ・粘土団子の作り方（今日の活動）について ・粘土団子を蒔いた後の観察の仕方について ③粘土団子作りの実演を見る。	3. 学習のポイント ■タネは水に浮かべ沈んだものを乾燥させておく。 1. 粘土団子作り ・紙芝居を見て、粘土団子について理解をし、楽しそう、やりたいという意欲を持つ。 ・土とタネの分量、水の量を知る。 ・粘土団子の大きさを知る。 ・ふるいにかけられた細かくさらさらの土を手に取り、土の質感、臭い等を感じる。 ・タネは形や大きさ、色等が様々あることに気づく。 ・野菜のタネが入った粘土団子をしていねいに丸めながら、タネはどうなるのだろうか等、今後の粘土団子の様子、タネの変化、生長等をイメージする。 ■粘土団子を乾燥させる。(3~7日間)
	(2) 粘土団子を作る。(1時間) ①粘土質の土をふるいにかける。 ②さらさらとなった①の土とタネを混ぜる。 （土量はタネの10~15倍） ③水をごく少量②に混ぜる。(加減が難しいため霧吹きを使うと良い。) ④よく捏ねる。上からたたきつける等して空気を抜く。 ⑤小さく切り分け直径約1~2cmの小さなだんごに丸める。 ⑥用意した入れ物やトレイに入れる。	オリジナル紙芝居 「はじまりはいのちのねんどだんご」  ていねいに丸める  作り方の実演風景 

学習概要	左2枚：自分が用意したタネが入った粘土団子 右：1品種のタネが入った粘土団子  ⑦片づけをし、トレイに入れた粘土団子を乾燥させるために、雨に濡れない場所や棚等に移動させる。 (3) 終わりの会(15分) 2. 粘土団子蒔きから観察 (1) 粘土団子を蒔く 用意した畑に蒔く  砂漠のような砂地に蒔く  自分の印を付ける  (2) 生長を見守る 2週間後  1ヵ月後  4ヵ月後  3. 鳥や虫のように食す 4. 学習のまとめ ○いのちの粘土団子作りは簡単でとても楽しいことだとわかった。 ○いのちの粘土団子を蒔いた後は、 「みんなで楽しく作った粘土団子は蒔いたらどうなるのだろうか。」 「出てくる芽や葉はどんな形をしているのだろうか。」 「何の野菜ができるのだろうか、そしてそれはどんな味なのだろうか。」 等、粘土団子から始まる命のありように触れて、よく観察するように促す。 ○上からばかり見るのではなく、寝転がったりして横や下からのぞいたり、小さな虫になった気持ちで観察させる。「野菜ばかりではなく他の生き物に出会えるかも知れない。」「小さな水たまりもあるかも知れない。」「どんな世界になっているか考えてみよう。」等、観察の視点を示す。 ○粘土団子を蒔き、自然に任せることで始まる命の世界、命のありように興味・関心を持つように話し、問い掛け、学習をまとめる。	2. 粘土団子蒔きから観察 ・粘土団子の発芽を目の当たりにすることで、生きるいのちを感じる。 ・タネのいのちを自然に任せじつと見守ることにより、植物の時間を感じる。 ■いのちのタネがどんな植物だったかを知らせる。 使用した種を貼り出した。  ・粘土団子から発芽した野菜が何であるか、茎や葉の色、形等をタネの袋や図鑑と見比べながら、自分で発見する喜びを感じる。 ・昆虫等を見せ、観察対象を広げる。粘土団子から広がるいのちに気付く。 ・天気や時間による畑や野菜の様子の違いに気付く。自然の持つ力に気付く。 3. 鳥や虫のように食す ・鳥や虫のように、美味しそうと感じた時に食す。いのちのつながりに気付く。 収穫祭の準備をする 
	追加・変更できる学習内容 いのちの粘土団子作りが活動の中心となる。蒔いてからは、利用者が自由にアレンジ出来る。その際の支援は可能。	
	事前・事後学習についての助言 ○粘土団子が始まりとなりそこに見られる命の世界、ありようを様々な子どもの視点で観察し、気付きを促すプログラムのため、世話は最低限に留め自然に任せる。 ○発芽時期は粘土団子によりまちまちである。「命あるタネは条件がそろって発芽する。」「形、色、大きさが違って命あるタネは発芽する。大事に見守ろう。」と自然への興味・関心を深めるための声掛けをする。 ○粘土団子を蒔く場所は不問。たくさん作ってたくさん蒔こう。	
	雨天時の学習内容 雨天の場合は、雨を避けられる場所があれば行う。	